

発掘ニュース

第 2 号

昭和 57年 10月 5日

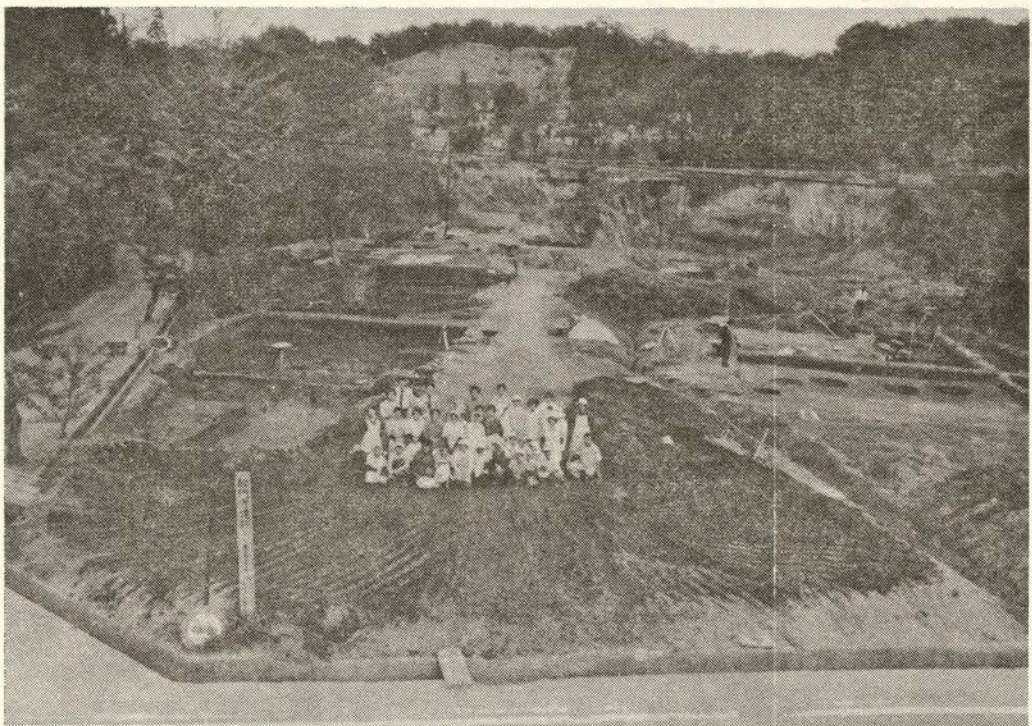
発行 財団法人 いわき市教育文化事業団

龍門寺遺跡

発掘調査が始まってから1月半が経過し、たくさん新しいことがわかりました。なかでも礎石を用いずに直接穴を掘って柱をたてた掘立柱のあとや直径1.5mほどの楕円形の穴（土坑とよばれる）が検出されました。10月にはいっ、てから古墳（円墳）の石室（死人を葬る室）もみつきり今後の調査がたのしみです。古墳について詳しくは次号でお知らせします。

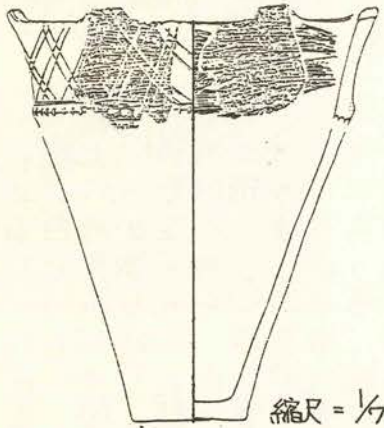
遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶器などの土器と石鏃、石斧、たたき石などの石器が多数出土しています。特に弥生時代初め頃の土器が多く、壺、甕、鉢、椀、蓋などさまざまなかたちのものがあります。

今回の第2号は特に土器を中心テーマにして、その作り方や時代によつてかたちと文様が変化するようすを本遺跡出土の土器で構成してみました。



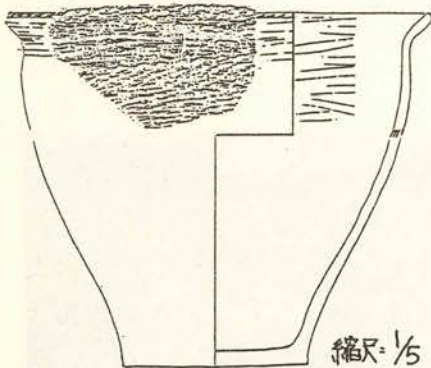
土器のうつりかわり — 龍門寺遺跡出土 —

土器には、いろいろな形のものがあります。今回は、龍門寺遺跡から出た深鉢や甕と言われる土器を説明します。深鉢や甕は、食物の煮たき、水甕用などに使われ、時には、お椀として転用されました。



縄文時代早期の深鉢

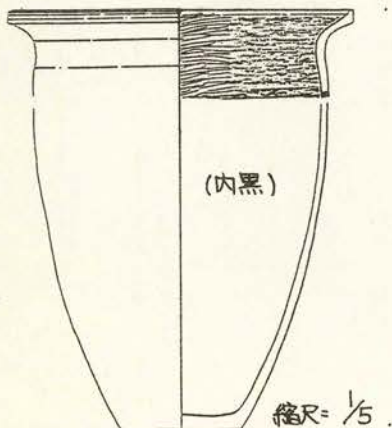
この土器は縄文時代早期のもので、早期には底が尖った尖底土器がほとんどですが、左の土器は早期でも終わり頃のもので、底は平らな形をしています。形は、口縁部に四角い突起をもち、胴部には粘土紐の段があります。文様は貝殻でひいた条痕の上に2本一組の沈線が描かれ、段には棒で押した連続の凹みをもちます。



弥生時代中期の甕

この甕は口径28cmと広く、口唇部には胴部と同じ文様がつきます。口縁部は横にナデられ、胴部には細い棒に紐を巻きつけて転がした文様(燕糸文)がおそらく底部近くまで全面につくと思われます。

このようにこの時期の甕は、上図の縄文土器とくらべて厚くなく、文様も簡素化してくるのが特徴です。



平安時代の甕

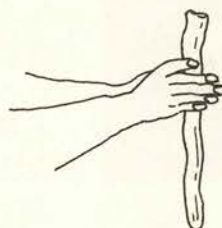
古墳時代から奈良・平安時代までの赤焼きの土器を土師器と呼んでいます。この甕は「ろくろ」(回転台)を利用して製作され、ろはな窯で焼かれています。縄文土器や弥生土器とはちがって表面に文様はありません。このように平安時代の甕は、「ろくろ」で作られ口縁部が大きく開き、やや細長い形になるのが特徴です。

作り方シリーズ 1 一土器一

① 粘土に「水」を加えてよくこねる。



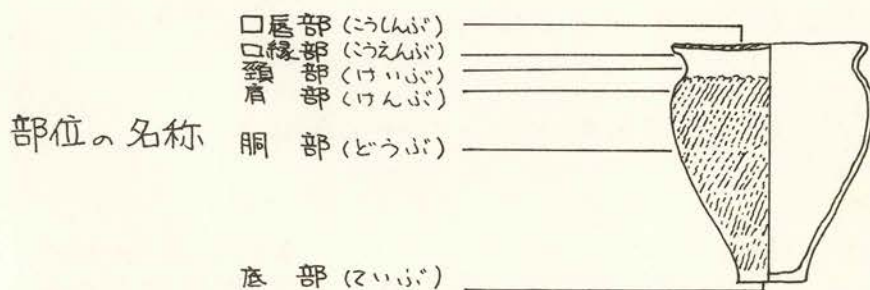
② 粘土で太い紐ひもをつくる。



③ 底の方から粘土紐を一段づつ積みあげる。

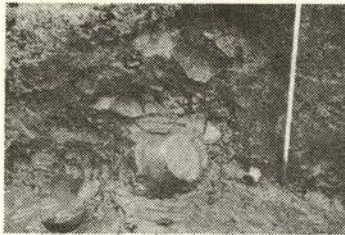


④ 熱した紐を土器の表面にころがしながらか押しつけ、乾燥させてから野焼きする。

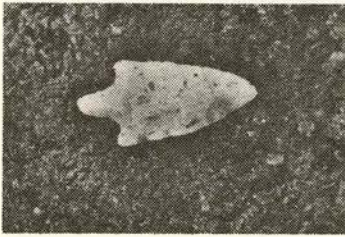


龍門寺遺跡出土の遺物

—出土状況—



龍門寺石段右側の石垣付近から出土した弥生土器の甕の写真です。この土器が入、マいた土の層はま、黒で、上の方から流れてくる、たい積したものです。この層からは弥生土器が非常に多く出土しています。



石鏃は矢や^お鋸の先につけて^え獲物をとるのに使う小型石器のひとつです。本遺跡からは10数点出土していますが、そのほとんどは、左図のようなかたち（有茎石鏃と呼ばれる。）をしており、弥生時代のものです。

読者の声

僕と遺跡

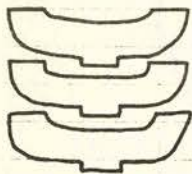
平五小6年 早川和繁

ここに遺跡が見つかる以前は、ぼくら小学生のよい遊び場であった。かくれんぼやさわり鬼など小さい子から大きい子まで仲良く遊んでいた。ある朝のラジオニュースで遺跡が発見されたことを放送していた。五里内や竹ノ下古墳の近くに住居跡がなく、以前から不思議に思っていたので、かんが当り嬉しかった。わくわくする気持ちをおさえて登校した。学校でもその話で持ち切りだった。学校が終るとすぐ友達と現場へ急いだ。事業団のお兄さんに聞いたのですが、これまでにいわき市内ではあまりよく知られていない変わった遺物らしいということも教えてくれた。調査が進むにつれていろいろなことがハッキリしてくるので、ますます興味がわいてきた。僕は学校の帰り、ほとんど毎日現場を見に行、マいます。変わったものが出るとすぐ見れるからです。

一度でいいから「発掘調査」を手伝、マりたい。

《ひとこと》

最近、小中学生が下校途中見学に来るのでにぎやかですが、見学なれた子は調査員の注意も聞こえぬようで、自由気ままに歩いています。困、たものですね。



※ 遺跡の中では、マナーを守ろう！

編集

(財)いわき市教育文化事業団

(電話)0246-24-2803

龍門寺遺跡調査係

とじておきましよう